

第3回海外姉妹都市提携検討市民会議(27. 12. 17開催)

■海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について

## 資料を参考に、海外姉妹都市を希望している海外の都市について意見交換を行った。

(主な意見)

- ・日本との交流を希望している国は、中国が多いと感じました。中国の姉妹都市交流の目的については、異文化交流とは違って、商売の方に結び付けたことに重点が置かれているようであると思う。
- ・稲城市の小・中学校の外国語教育では、英語を主体に学習をしている。英語は世界共通ということはあるが、一覧表では、英語を母国語として使っている国が非常に少ない。
- ・姉妹都市のきっかけというのはいろいろあって、このようにクエアを通してという場合やフォスターシティ市のような形で、何かつながりがある場合など、いろいろな方法があると思います。この資料に出ている部分という意味では、英語圏が良いと思う。
- ・97の町が出ているが、10年前に同じようなリストがあった。2~3件違うくらいで同じ国が載っていた。データに載せずに、実際に話を進めたというのが非常に多いと感じる。
- ・読んだ論文では、海外姉妹都市には目的が一番必要であると書いてある。皆さんでこの論文もシェアしたらどうか。

- ・論文の中にも書いてありましたが、語学、言葉の障害というのがあります。英語なら世界的な言語になりつつあり、一番良いと思う。
- ・稲城市の教育プランのキーワードの中に、「国際理解」というのがあります。外国語教育あるいは国際理解を通じて、国際性を育むというもので、そういうことを考えると、交流の主体となるのはやはり青少年というところを切り口として入るのかなと思います。そして、国際性を育むということであれば、やはり、海外姉妹都市の提携という部分は、早急に考えるべき課題である。
- ・海外姉妹都市を提携する目的については、「なぜ姉妹都市交流をやるのか」というのが一番の問題だと思います。交流の中身をどのように限定するか。稲城市としてどういう分野で交流がしたいのか。いろいろな他の町でやっている交流というのは一部に特化して、「この件について交流をしたい、だからこうなんだ」というのがあると思う。これがきっかけで姉妹都市をやりたいとなり、目的に繋がる。そうすると市民も納得すると思います。今お話があったように、一般の人はあまり関係がなく、学校だけの交流という風であれば、それは学校関係だけに特化しているということです。他にも、市民がスポーツで向こうといろいろ交流しているという市であれば、それに特化するという市も結構あります。何故そういう交流をしたいかということに尽きるかなと思います。稲城市としては、どういう交流が子どものためになるのかという視点で、友好関係を結ぶということではないかと思います。

- ・他の自治体の話を聞いた中で、10年ぐらい継続し留学などの環境は出来ているが市民への浸透や継続が難しいという話は聞いている。
- ・交流の目的がすごく大事というのはわかります。今出ている中では、英語圏という話がありますが、それは語学のことと言っているのか、付き合いやすいから英語圏ということなのかわかりません。英語圏で言うと、フィリピンもかなり勉強熱心なところで、歴史的な背景もあり、英語がかなりできます。この一覧にのっているフィリピンのまちがどういう場所かは分かりませんが、フィリピン自体はすごく子どもの教育、特に英語には力を入れているという所ですので、英語圏と言ってもアメリカだけじゃないのかなと、この表を見て思いました。また、ネパールも勉強熱心なところで、うちにも何回かネパールの方がいらっしゃったのですが、3ヶ国語くらい喋れる方も多いです。地理的なところで難しいのかもしれませんが、そういったところも可能性としてはあるのかと思いました。
- ・いくつか英語圏という話がありましたが、資料として97の希望団体の一覧が参考として出ていますが、そういうところからどんどん候補を絞り、検討していった方がいいと思います。
- ・英語圏でという形でやると、範囲が非常に狭まります。あんまり範囲を狭めなくても良いと思います。

## ■海外姉妹都市との交流について

# 資料を参考に、海外姉妹都市との交流について 意見交換を行った。

(主な意見)

- ・提携のきっかけとしては、民間の交流や学校間の交流などが行われていたり、外国の方がその市にこられて交流が行われたりすることがあり、その後、ある程度の年数を経てから、提携に結び付くようです。今、行っている民間や学校の交流の中から、選ぶというのが大方というように思います。また、教育関係の交流が多いように見受けられるので、稲城市もそういうことを考えると、青少年のための姉妹都市と考えることが良いと思います。
- ・資料に目を通してみると、文化交流というのは必ず入っています。青少年を中心とした文化交流というのを目的としてやっていくといいものができるのではないかと考えています。
- ・青少年から高齢の方まで、芸術文化や幅広くスポーツ等へと交流内容を広げるとよいと思います。

- ・小・中学生で教育交流を行うと考えた場合、選ばれた子どもたちだけが行くというような形より、多くの子どもたちが参加できるような事業であるほうが良いと思います。インターネットを使って、スカイプなどもありますから、画像を使って向こうとやりとりをし、多くの子どもたちに、相手国を見てもらえるような環境をつくり、そこで議論があれば、文化の違いも分かるだろうし、画像を通しての交流にもなると思います。
- ・教育交流だけではなく、若い子から、大人まで、幅広い年齢層が交流できるようになればいいと思います。
- ・最初からホームステイということでもよいと思います。
- ・学校には、パソコンがあるらしいので、学校同士で交流をスタートすることが良いと思います。
- ・何に重点を置いて交流をするかということが重要である。例えば、ごみ問題を一つの材料として、話をするのも良いのかと思います。
- ・基本的に何をやるかが決まれば、それに伴って語学はそれなりについてくると思います。
- ・野沢温泉村が行っている「稲城100年の森」のような交流ができるとよいと思います。
- ・交流も相手側により温度差がありますので、何をやるのかをよく考えないといけないと思います。また、交流のやり方もよく検討することが必要です。

- ・国内のホームステイでも稲城市側の受け入れ先が難しい中で、海外の方を受け入れるとなるとさらに難しくなると思います。
- ・異文化交流ですから価値観も違うし、状況も違うので、何を目的にするかという所をはっきりしないといけません。
- ・今回の目的がはっきりして、それに合った、財源も含めた仕組み作りをしていかないと、国内でも海外でも、交流は難しい気がします。
- ・海外との姉妹都市というのが、可能な限り、特定の人のためではなく、市民のために、そして、この街の活性化のために、何かいい仕組み作りができればと思います。
- ・いろんな資料等も行政の方からいただいて、稲城にとっての姉妹都市はどうあるべきかという、話のスタートには立ったという気はします。
- ・教育、文化、経済、スポーツ、行政、今この資料に載っているのを考えると、それを複合的にやっていかないと長続きはしないと思いますので、是非、スカイプを使いながら交流していただければいいと思います。
- ・ホームステイという前置きがあるから難しいのであって、「交流」と言う形で来てもらい、どこかホテルなどに泊まっていたいただいて、次の日に待ち合わせて、交流することもできると思います。もっと広く考えれば良いのではないかと思います。

・ホテルをとってあげて、こちらにきたら、日本の文化をとおして交流もできると思います。また東京案内をして交流をすることもできます。やり方は色々ありますので、まず相手先を決めて、次に何をしようという議論に入っていくと良いと思います。

・目的という部分では、一つ何か最初の売りがあって、そこから膨らんでいくのが一つの方法なのかなと思います。

・交流もどこの国とやるかによって違うと思います。ある程度、場所を絞って、それから、その中で、どういうことができるか、どういうことを希望をするのかについて、皆さんで検討したらどうかと思います。

※会議の中で、今年度あと1回の会議でまとめることは難しいという意見があり、委員長の判断により、これからの進め方について意見を伺った。

- 来年度においても、ある程度、このメンバーで会議を続けたいと思います。
- 計画では4回となっていますが、4回で全て結論を出すのは無理だと思います。
- 会議を継続するのなら、団体の推薦だけでなく市民から公募することも必要だと思います。
- このような会議をまた来年度もお金を使ってやっていくというのは、あまり賛成できない所もあります。
- オリンピック教育も行っているのであるから、稲城市で海外姉妹都市をやるのであればどのような国がいいかなど、子どもたちに何回か話をしても良いのではないかと思います。
- これ以上人数を増やすことは反対です。意見を集約できません。4～5人ぐらいのグループで検討しこの会議にて発表してまとめていくほうが良いと思います。
- 個々の団体の主催で集まった会議でやってもらい、それをもう一段上の市の会議に上げればもっと良い会議になるのではないかと思います。
- 会議を継続するのなら、視察団も必要になると思います。



- 相対的には後1回では厳しいというのが多く意見だと思います。
- 次の会議で、選定という話になるなら、本当に拙速な話になってしまいます。
- 予算のこともあり、会議の継続であるとか、決める人たちが、誰も行ったことがない所に決める訳にもいかないだろうし、そういうことになれば、それだけの配慮は必要であると思いますが、委員長として事務局に言わざるを得ないのではないのでしょうか。
- こちらが良いと言っても相手が駄目であるという場合もあると思います。逆に、稲城市と交流がしたいという都市を先に当たっていったらどうですか。
- 稲城市のホームページで、海外姉妹都市を希望するというPRを、英語や主要5カ国語ぐらい載せておいたらどうですか。世界中の人が見ていると思います。

※意見を伺った結果、以下の2点について市民会議にて確認をした。

- 今年度あと1回で結論をだすことはできない。そのため、来年度も会議を継続し検討するように配慮してほしい。
- この会議で、都市の選定もしなければいけないので、現地を視察し、相手側を確認できるように配慮してほしい。